第２回日本金融学会賞

受賞者

植杉　威一郎　氏
一橋大学経済研究所

授賞理由

植杉威一郎氏は、中小企業金融、銀行・企業間関係ならびに中小企業政策に関する研究を専門とし、また関連する研究を糸口として、その研究の領域を不動産金融、企業行動のダイナミクス（動態）といった分野にも広げてこられました。そうした研究の成果は、Journal of Banking & Finance、International Economic Review、Journal of Money, Credit and Banking、Journal of Financial Stability などの世界トップクラスの国際学術誌に掲載され、内外の学界で高い評価を得ています。また、2022 年 6 月に日本経済新聞出版会から出版された『中小企業金融の経済学』は、自らの研究に基づきつつさまざまな既存のエビデンスを丁寧に整理した、日本の中小企業金融・中小企業政策に関する過去に類を見ない著作であり、第 65 回（2022 年度）日経・経済図書文化賞も受賞されました。

中小企業金融や中小企業経済学、中小企業政策の分野は、データの不足を主な理由として十分なエビデンスが蓄積されず、長年にわたって逸話的な証拠に基づく議論が中心となっていました。これに対し、植杉氏は各種アンケート調査や政府統計を駆使して定量的なエビデンスの蓄積に尽力するとともに、様々な研究グループの中心人物としてこうした分野や他の関連分野の研究を主導してきました。こうした研究の成果は、政策の現場に対しても重要な影響力を与えてきており、その功績はきわめて高く評価できます。よってここに、植杉氏によるこれまでの優れた学術的業績を称え、日本金融学会賞を授与いたします。

日本金融学会賞審査委員会
櫻川　昌哉(委員長)
内田　浩史
大野　早苗
高槻　泰郎
家森　信善